

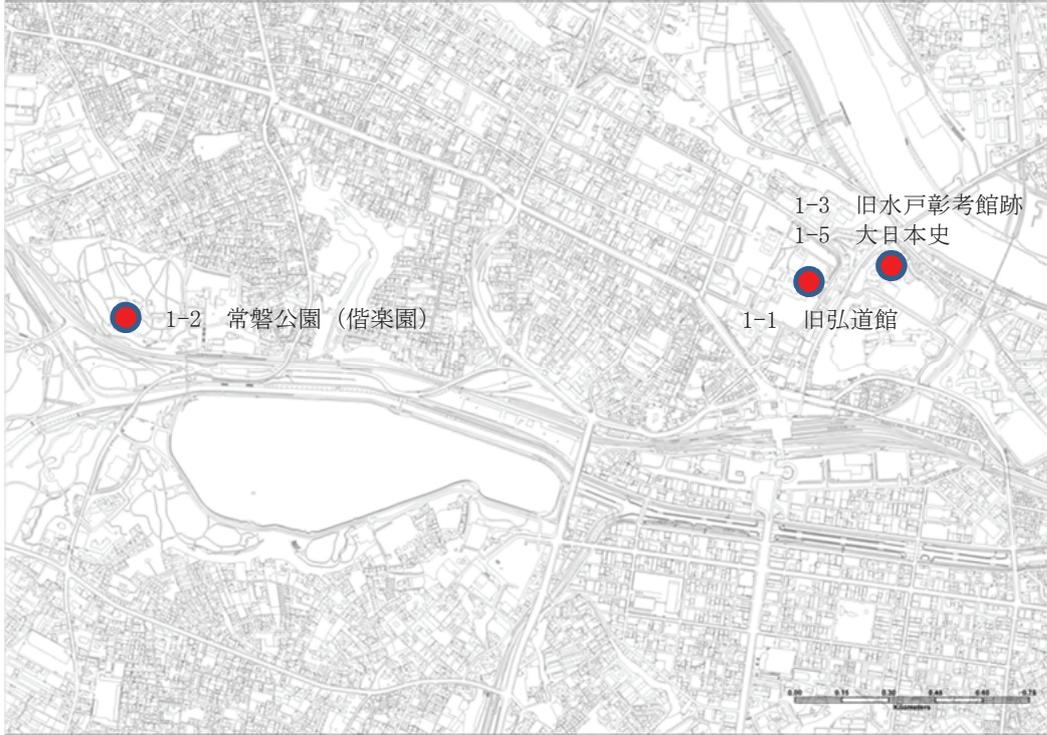
① 申請者	◎水戸市, 足利市, 備前市, 日田市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
近世日本の教育遺産群 ー学ぶ心・礼節の本源ー			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。			
			
旧弘道館 (茨城県水戸市)		足利学校跡 (栃木県足利市)	
			
旧閑谷学校 (岡山県備前市)		咸宜園跡 (大分県日田市)	

市町村の位置図 (全国地図)



構成文化財の位置図 (水戸市)

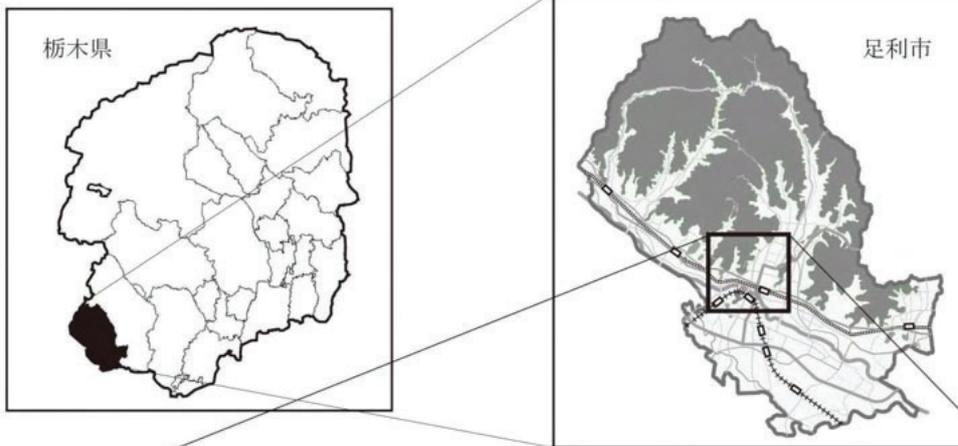
拡大図 1



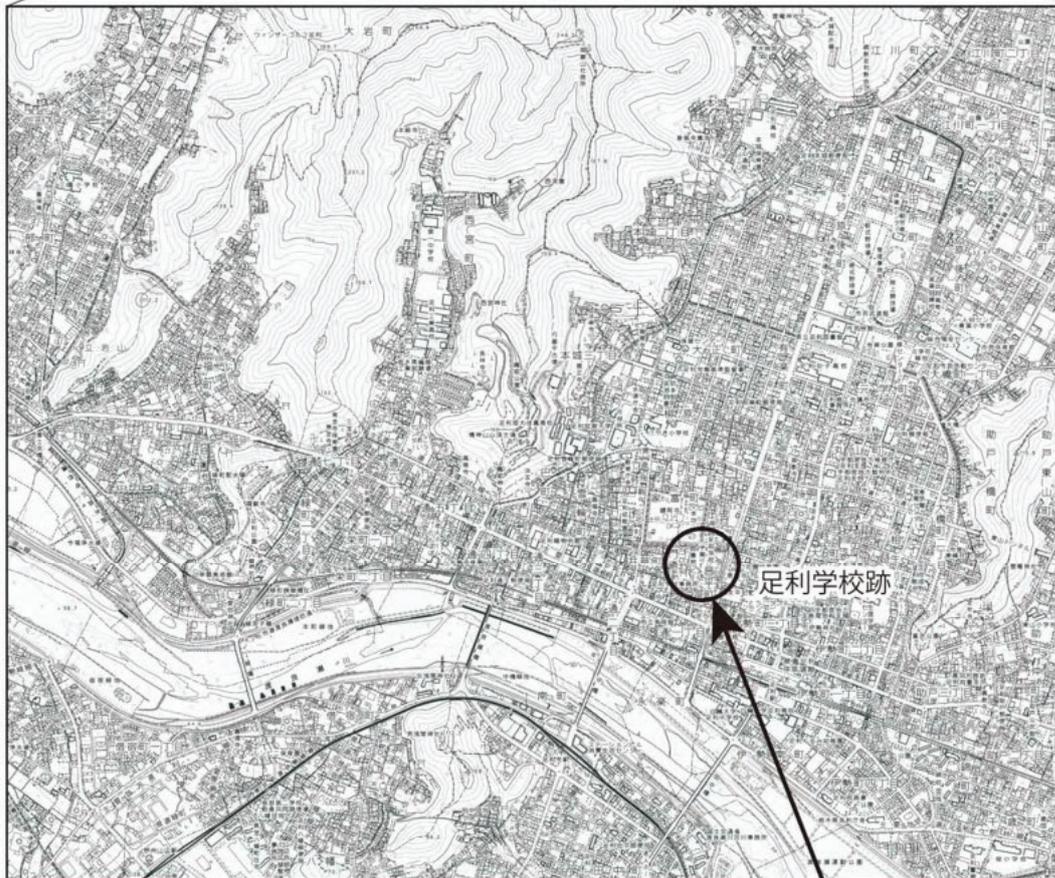
拡大図 2



市町村の位置図 (足利市)

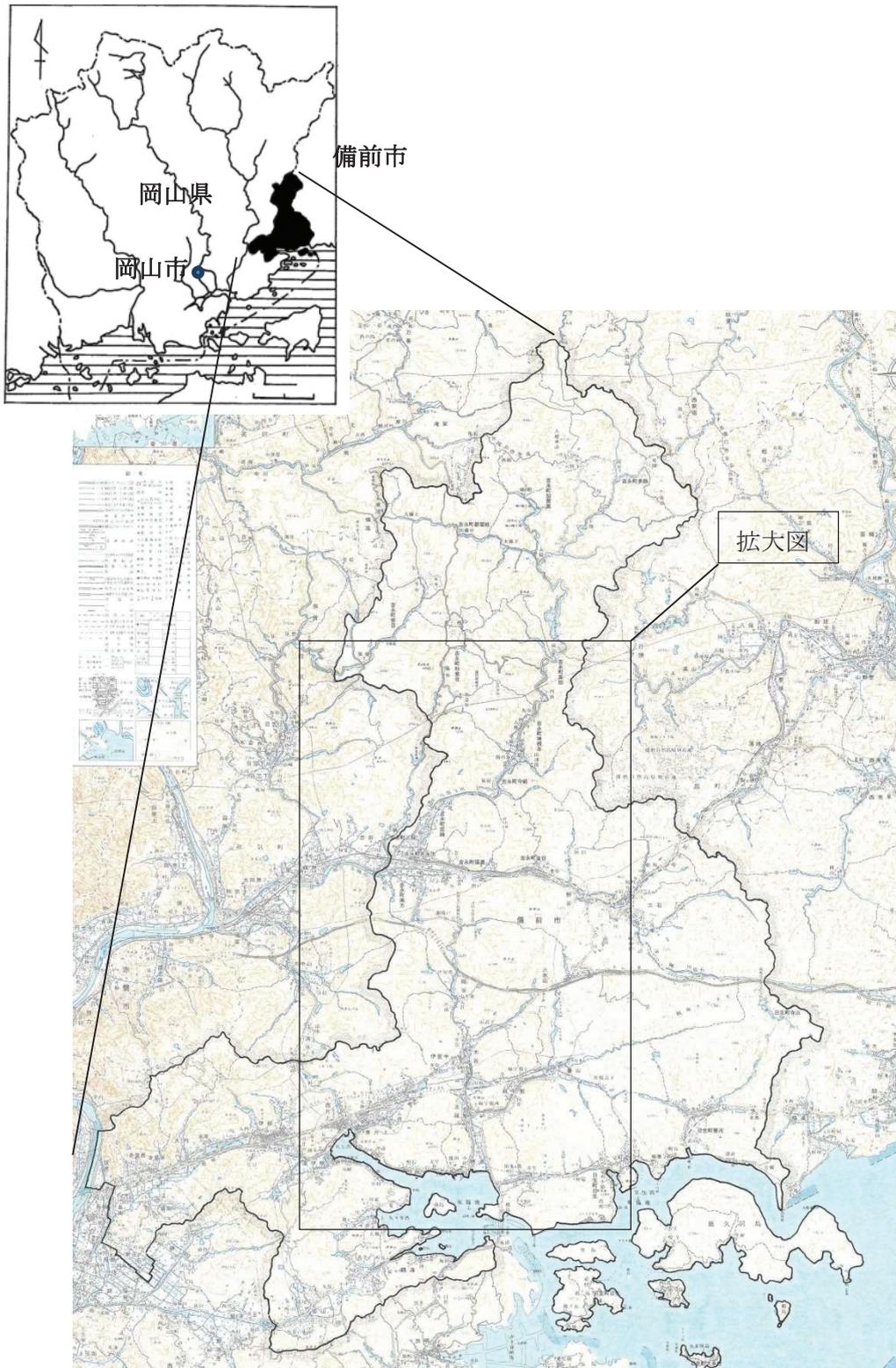


構成文化財の位置図 (足利市)

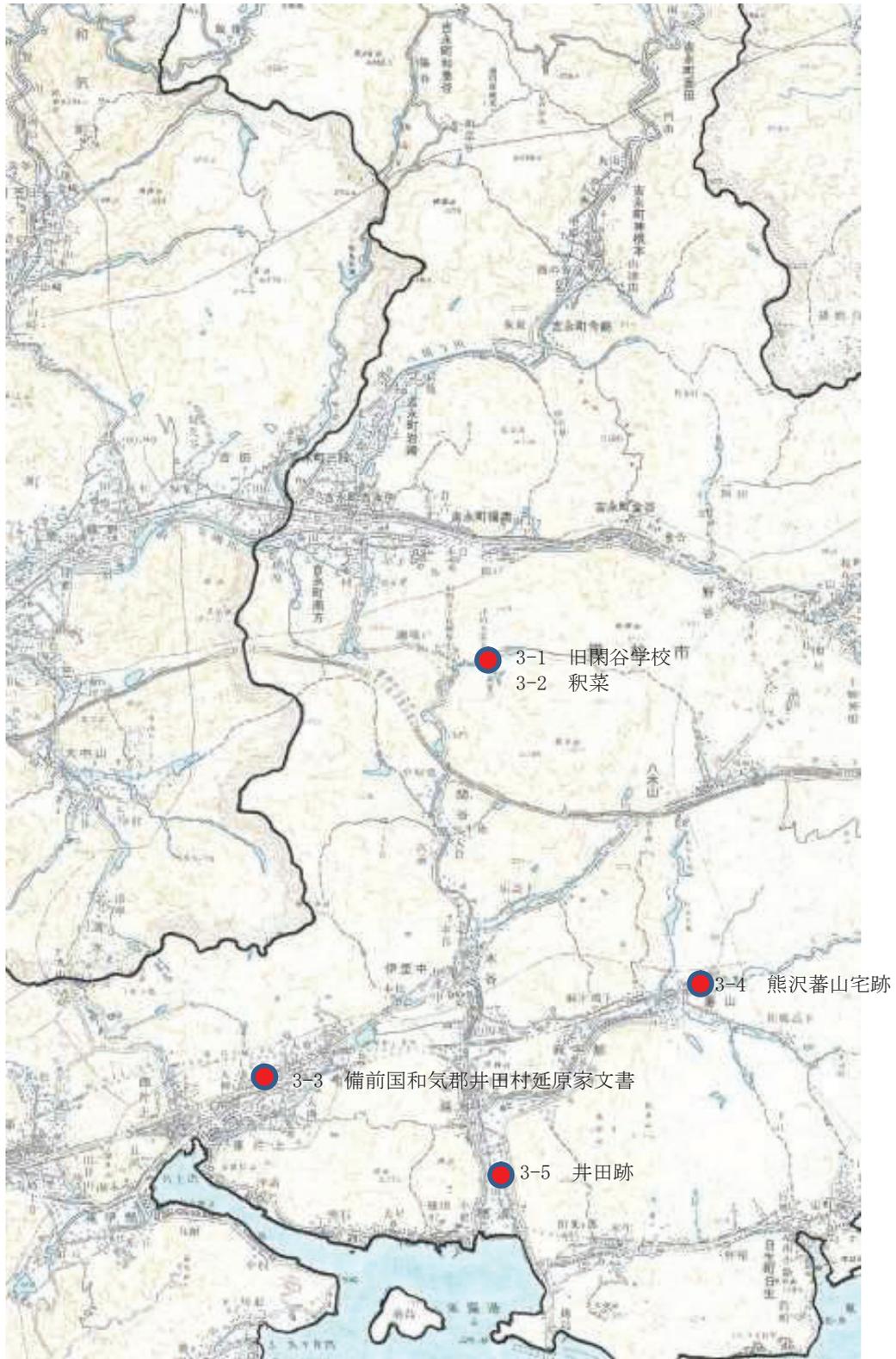


- 2-1 足利学校跡
(聖廟および附属建物を含む)
- 2-2 国宝漢籍
『礼記正義』『尚書正義』
『文選』『周易注疏』
- 2-3 釋奠

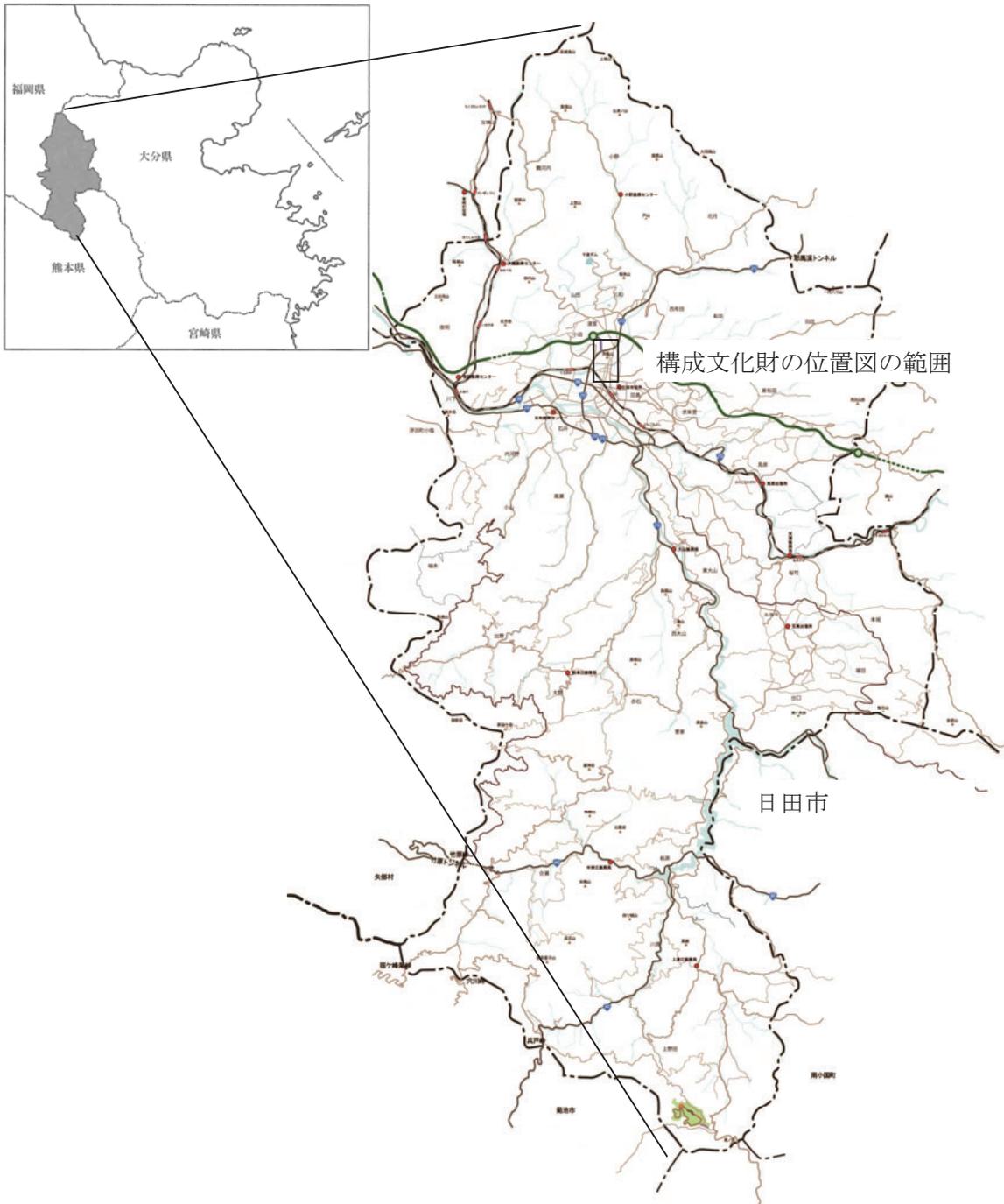
市町村の位置図 (備前市)



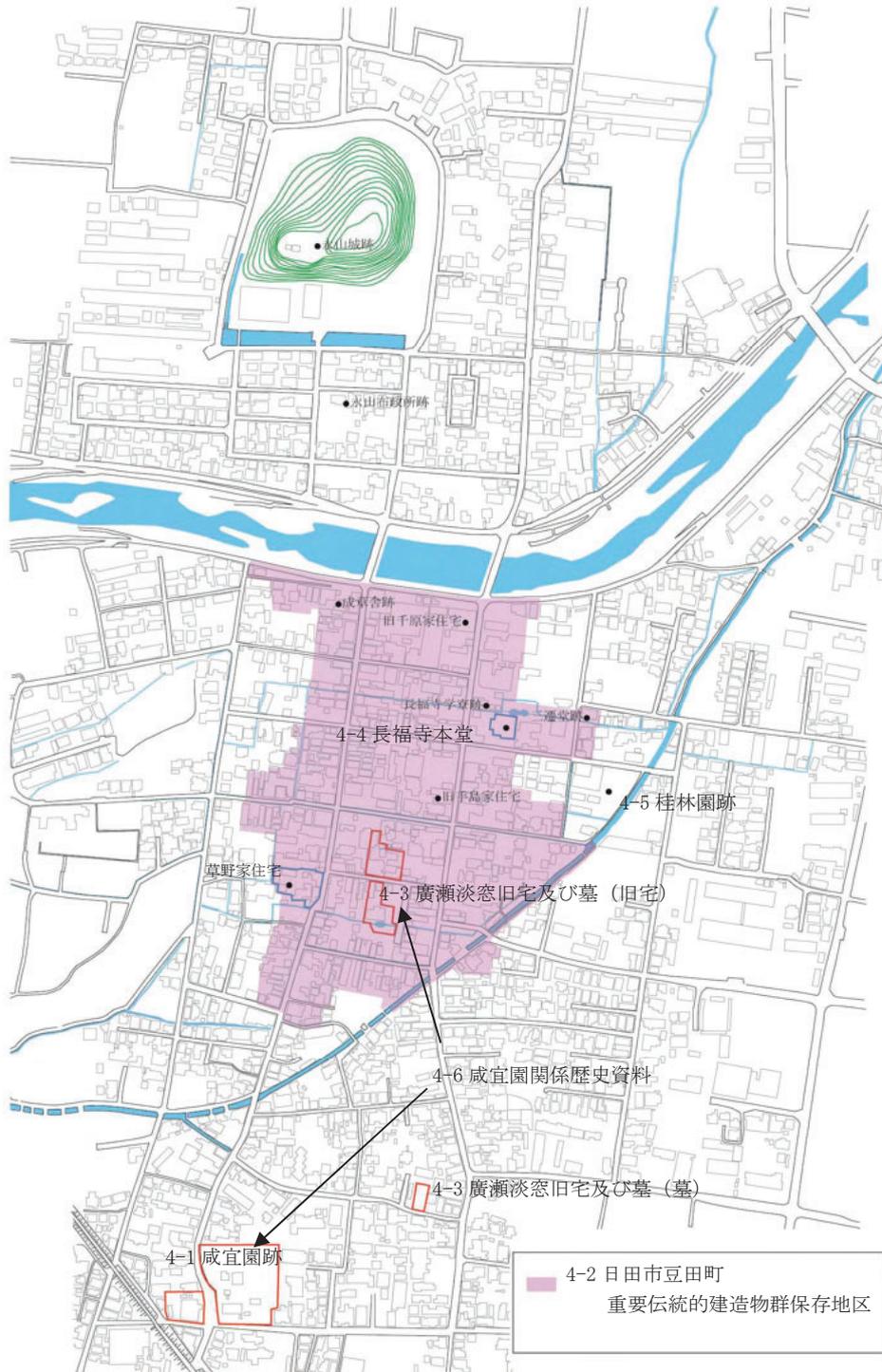
構成文化財の位置図 (備前市)



市町村の位置図 (日田市)



構成文化財の位置図 拡大図 (日田市)



ストーリー

1 外国人から見た近世日本の姿

近世日本を訪れた外国人は、紀行文に日本人の様子を書き記しています。

イギリス領時代のカナダ出身の冒険家、ロナルド・マクドナルドは「日本回想記」の中で、「日本人のすべての人―最上層から最下層まであらゆる階級の男、女、子供―は、紙と筆と墨を携帯しているか、肌身離さずもっている。すべての人が読み書きの教育をうけている。また、下級階級の人びとさえも書く習慣があり、手紙による意思伝達は、わが国におけるよりも広く行われている。」と述べています。

また、イタリア人宣教師、アレシャンドゥロ・ヴァリニャーノは、「日本巡察記」で「人々はいずれも色白く、きわめて礼儀正しい。一般庶民や労働者でもその社会では驚歎すべき礼節をもって上品に育てられ、あたかも宮廷の使用人のように見受けられる。この点においては、東洋の他の諸民族のみならず、我等ヨーロッパ人よりも優れている。」と記録しています。

これらの記述からは、当時の日本人が、他の諸外国と比較して、身分や性別を越えて高い読み書き能力を持ち、礼儀正しさを身につけていた様子が分かります。

こうした教育の伝統が継承され、明治維新後の日本の近代化が進められたことをロナルド・ドーアなどの欧米の研究者は、「近世日本の教育こそが日本近代化の知的準備をした。」として高く評価しています。

このようなエピソードからも分かるように、近世の日本では高い教育を受けた層が社会全体に広がっていました。外国人にとっては、一見ただけで相手の身分を判断することは困難なほどでした。

2 近世日本を支えた学校の普及

近世の日本人が高い教養を身につける上で大きく貢献したのが、全国各地に建てられた学校です。

その学校の始まりと言えるのが、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが「日本国中最も大にして最も有名な坂東の大学」と称した足利学校です。足利学校の創建については諸説ありますが、15世紀、上杉憲実^{のりざね}は学規を定め、現在国宝となっている漢籍^{かんせき}を寄進するなどして足利学校を再興し、戦乱の時代においても全



国から多くの学徒が集まりました。その教えは、儒学を中心としながらも、易学・兵学・医学など多岐にわたり、日本最古の総合大学と呼ぶにふさわしいものでした。

江戸時代になると、足利学校は、貴重な書籍の宝庫として、幕府から保護されました。足利学校の自由で開放的な学びと自学自習の精神は、近世の学校の原点と言えます。

一方、足利学校以外にも積極的に教育に取り組んだ藩主たちが各地に学校を設立していきました。

岡山藩主の池田光政は庶民の教育も不可欠と考え、閑谷学校^{しずたにがっこう}を創りました。光政は熊沢蕃山^{くまざわばんざん}から学んだ儒教思想にのっとり、緑の生い茂る閑かな山村に教育の理想を体現しました。現在国宝となっている講堂などの建物や石塀などの施設は、火災や雨から守り長持ちさせるための工夫がされており、学校存続への強い願いが表れています。経済基盤としては井田村下井等の学田^{いたむらしもい}を持たせて学校の永続を図りました。日本最古の庶民教育学校とも呼べる閑谷学校^{がくでん}では、広く門戸を開き、他領からも多くの生徒が集まりました。

また、18世紀以降多数の藩校が建設されますが、その配置計画は閑谷学校のように日本的なものが大多数となっていきます。したがって閑谷学校は日本の学校建築の出発点に位置し、現存最古の代

表例といえます。

江戸時代後期には、個人が経営する私塾も日本全国に数多く生まれてきました。

幕府の代官所が置かれた豊後日田では、町人を中心とした自由な風土が生まれ、廣瀬淡窓が咸宜園という私塾を創設しました。咸宜園では、毎月成績評価を行う「月旦評」などの特色ある教育が全国的な評判となり、各地の私塾に影響を与えるとともに、全国60か国以上から5,000人を超える門下生を集め、日本最大規模の私塾となりました。咸宜園に隣接する豆田町には、淡窓の日記や入門簿・会計録などの史料が伝わる淡窓旧宅や長福寺などの町並みが残り、その周辺では、咸宜園である前身の桂林園跡や塾主の墓を見ることができます。

また、幕末に頻繁に起こった外国船の接触によって、時代を切り開く力を持った有能な人材の育成が必要となり、実力主義や幅広い科目を教える学校が広がっていきました。

弘道館は、水戸藩主の徳川斉昭が教育によって人心を安定させ、国を興すために設立した日本最大規模の藩校です。水戸藩には、歴史書『大日本史』を編集した彰考館があり、昔から学問・教育が盛んでした。弘道館は、歴史だけでなく、医学、兵学、武芸など実用的な科目も備えた総合大学ともいえるもので、その教育方針や施設、運営方法等は松代藩校文武学校や庄内藩校致道館等の他藩の藩校にも大きな影響を与えました。一方、偕楽園は勉学の休息の場として位置づけられ、弘道館と対をなしていました。偕楽園の梅は、非常食になる実用的側面と、学問を好む「好文」という異名を持つことから斉昭が植樹を奨励したもので、水戸藩の学問興隆の象徴となっています。郊外にも個性重視の教育を行った日新塾など、特徴的な私塾が建てられ、多彩な門人を輩出しました。

こうした日本の学校は、中央政府である幕府ではなく、民間や藩が主導して発展していったことに特徴があり、幅広い教育を行うことができました。

3 現代に継承される近世日本の教育

これまで紹介してきた、近世日本を代表する教育遺産群では、現在でも論語の素読やいろはかるたなど、当時の教育内容を同じように体験することができます。これらの学校は、過去の遺産ではなく、現在でも生きた学びの場であり続けています。

近世学校の原点としての威厳が漂う足利学校では、国内に現存する最古の聖廟が残り、11月には孔子を祀る釋奠という祭礼が行われます。足利学校と同じく孔子を祀る釈菜という祭礼が受け継がれている“学びの原郷”閑谷学校では、日曜日になると、論語の朗誦が静かな山間に響き渡り、往時の姿を偲ばせます。

咸宜園と豆田の町並みを歩けば、江戸時代の「学園都市」や町人文化の空気に触れられますし、弘道館や偕楽園を訪れると、ほんのり甘い梅の香りとともに、水戸藩の学問の伝統を感じられるでしょう。

近世の日本ではこうした学校とその周辺を取り巻く環境を舞台に営まれてきた教育の成果によって、世界でも類を見ないほどの高い教育水準を実現し、それが明治維新以降のいち早い近代化の達成につながりました。一方、こうした教育は、礼節を重んじるという日本人の国民性を形づくってきました。現在、日本人のマナーの良さは世界中で高く評価されています。まさに近世日本の教育は、現代にも継承されている「世界に誇る日本の教育」だったと言えるでしょう。



ストーリーの構成文化財一覧表（水戸市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地 (※4)
1-1	きゅうこうどうかん 旧弘道館	国特別史跡	総合大学ともいえる藩校の代表例。医学館では種痘が実施され、徳川斉昭は実子2人に種痘を行うなど、領内に普及を図った。現在でも館内では、論語教室が行われている。	茨城県水戸市
1-2	ときわこうえん 常磐公園 かいらくえん (偕楽園)	国史跡及び名勝	弘道館と一対の教育施設として造られた庭園。園内には、学問興隆の象徴として、「好文木」として知られる梅が植樹された。	茨城県水戸市
1-3	きゅうみとしょうこうかんあと 旧水戸彰考館跡	未指定	徳川光圀により開設された「大日本史」の編纂局。光圀に招かれた明の儒学者朱舜水是、水戸藩の修史事業に大きな影響を与えた。	茨城県水戸市
1-4	にっしんじゅくあと 日新塾跡	市史跡	弘道館と同時期に水戸藩郊外で運営された私塾。水戸藩士を含む多彩な門人を輩出した。多様な教育科目を備え、医学も盛んであった。	茨城県水戸市
1-5	だいにほんし 大日本史	未指定	水戸徳川家第2代藩主徳川光圀によって開始され、水戸藩の事業として継続し、明治時代に完成した歴史書。	茨城県水戸市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（足利市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地 (※4)
2-1	足利学校跡 (聖廟および附属建物を 含む)	国史跡	現存する日本最古の学校の遺跡。我が 国儒学の学灯を伝える学問の府とし て全国より学徒が集った。自由で開放 的な学びと自学自習の精神は、近世の 学校の原点となった。なお、聖廟は国 内現存最古のものである。	栃木県足利市
2-2	国宝漢籍 『礼記正義』『尚書正義』 『文選』『周易注疏』	国宝（書跡）	漢籍を中心とした貴重な書籍の宝庫 である足利学校は、近世期も全国から 学者や著名人が訪れ、蔵書の閲覧や研 究が行われた知のネットワークのセ ンターであった。	栃木県足利市
2-3	釋奠	市民俗	聖廟では、孔子のまつりである釋奠が 営まれる。伝統的な祭器を用い、現在 は毎年11月23日に行われている。	栃木県足利市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、
県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明になら
ないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまた
がる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（備前市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
3-1	きゅうしづたにがっこう 旧 閑谷学校	国特別史跡 国宝・国重文	岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校で、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化遺産。	岡山県備前市
3-2	せきさい 釈菜	未指定	江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、ここでは孔子の徳を称える釈菜の儀式が行われた。閑谷学校では、貞享3年(1686)から始まり、現在も行われている。	岡山県備前市
3-3	いたむらのぶはら 備前国和気郡井田村延原家文書	未指定	検地帳などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子どもたちが学校に通う様子がわかる。	岡山県備前市 (備前市歴史民俗資料館)
3-4	くまざわぼんざん 熊沢蕃山宅跡	市史跡	池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学んだ。蕃山隠居の地が学校から程近いところに残る。	岡山県備前市
3-5	せいでん 井田跡	市史跡	池田光政が中国周時代の土地制度である井田制を再現させた新田。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえた。	岡山県備前市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡,国重文,県有形,市無形,等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

ストーリーの構成文化財一覧表（日田市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地 (※4)
4-1	かんぎえん 咸宜園跡	国史跡	廣瀬淡窓が創設した近世日本最大規模の私塾跡。	大分県日田市
4-2	まめた 日田市豆田町 重要伝統的建造物群 保存地区	国重伝建	私塾咸宜園と共生した町並みが残る。	大分県日田市
4-3	廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓が現存する。	大分県日田市
4-4	ちょうふくじほんどう 長福寺本堂	国重文	淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。	大分県日田市
4-5	けいりんえん 桂林園跡	未指定	咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に著名な「休道の詩」（桂林荘雜詠示諸生）が詠まれた。	大分県日田市
4-6	咸宜園関係歴史資料	未指定	私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。	大分県日田市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧 (水戸市)

1-1 旧弘道館



1-4 日新塾跡



1-2 常磐公園 (偕楽園)



1-5 大日本史



1-3 旧水戸彰考館跡



構成文化財の写真一覧（足利市）

2-1 足利学校跡（聖廟および附属建物を
含む）



2-2 国宝漢籍

『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』



2-3 釋奠



構成文化財の写真一覧 (備前市)

3-1 旧閑谷学校



3-4 熊沢蕃山宅跡



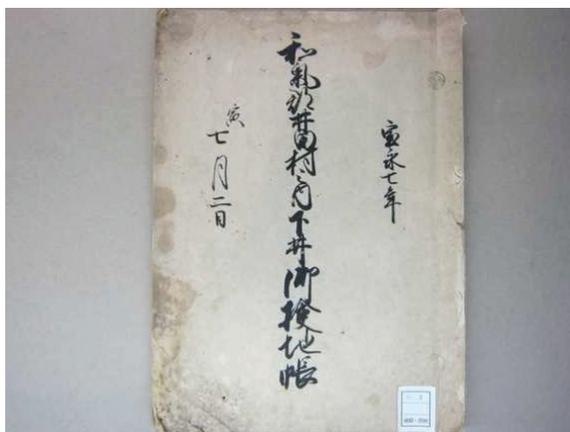
3-2 釈菜



3-5 井田跡



3-3 備前国和气郡井田村延原家文書



構成文化財の写真一覧 (日田市)

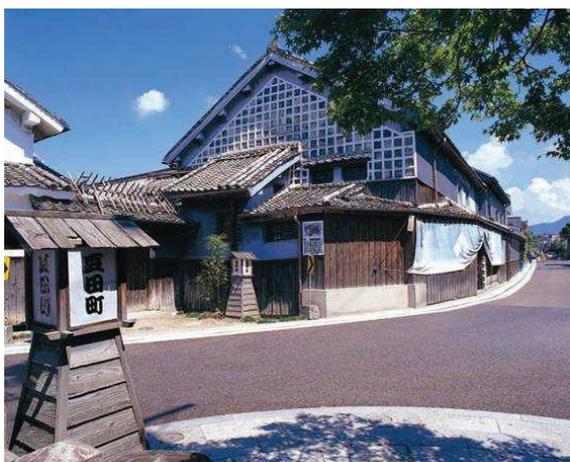
4-1 咸宜園跡 (秋風庵)



4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓 (墓)



4-2 日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区



4-4 長福寺本堂



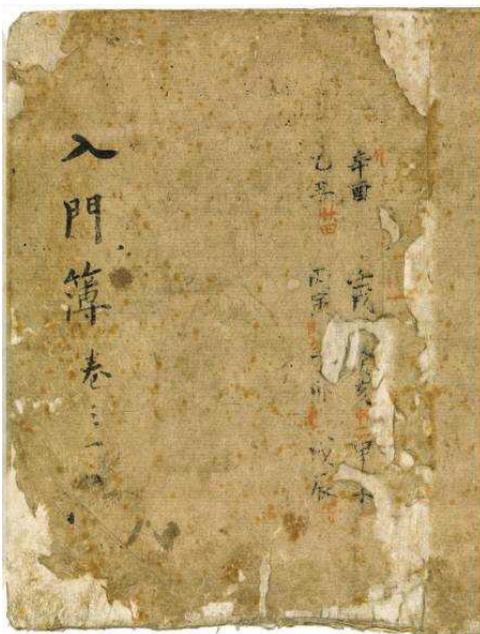
4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓 (旧宅)



4-5 桂林園跡 (現・桂林荘公園)



4-6 咸宜園關係歷史資料



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
001	近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－

(1) 将来像 (ビジョン)

近年、近世日本に対する評価が見直されている。250年近く国内で大きな戦争が起これず、「泰平の御代」と呼ばれる平和な時代が続いた。法や行政組織が整備され、人々には身分に限らず、幅広い知識と読み書き能力が求められた。このような社会を支えたのが近世日本の学びの場である。

近世日本においては、身分を超えた多くの学びの場が準備され、広域な知的ネットワークが形成された。このような環境で、近世日本の人々は来日した諸外国の人々が驚くほどの高い教育水準を有し、礼儀・作法を重んじた。その教育水準の高さは明治以降の日本の近代化に貢献したばかりか、礼節を重んじる姿勢は日本人の気質に今も脈々と受け継がれている。近世日本の教育遺産群の存在なしに日本の歴史・文化を語ることはできない。

茨城県水戸市（弘道館・偕楽園ほか）、栃木県足利市（足利学校ほか）、岡山県備前市（閑谷学校ほか）、大分県日田市（咸宜園・豆田町ほか）には近世日本を代表する教育遺産が点在しており、4市は教育遺産世界遺産登録推進協議会（以下、協議会）を結成して、近世日本の知的ネットワークに倣って広域で連携し、教育遺産が世界で稀有な事例である近世日本の学びの場であったことを、「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」のストーリーを活用して、日本遺産事業を推進することによって、地域の活性化や観光振興、歴史まちづくり、そして人づくりに生かすこととしている。

4市では協議会での事業のほか、各市の総合計画や文化財保存活用地域計画などの行政計画に日本遺産事業を積極的に位置付ける（別紙「構成4市の行政計画等における日本遺産の位置付け」）ことで、長期的な構想から各市独自の取組も推進しており、教育・まちづくり・観光資源といった多角的な視点から日本遺産制度と構成文化財を活用することとしている。

これら4市を構成市とする協議会における具体的な将来像は以下の通りである。

1 教育遺産群や4市の歴史・文化の認知度向上

「近世日本の教育遺産群」のストーリーや魅力を広く国内外に発信して、日本遺産や教育遺産群、そして4市の歴史・文化に関する認知度の向上を図る。具体的には、二次元バーコード等も活用しつつ、わかりやすい表現を用いながら多言語ガイダンス機能を整備して、構成文化財の案内や市内の展示施設の充実を図る。また、HPやSNS、日本遺産ポータルサイト等を活用して、最新のイベントや情報を提供する。

2 教育遺産群や4市の歴史・文化に誇りや愛着を持つ人材の育成

「近世日本の教育遺産群」の魅力について、4市をはじめ、各県内の人々に広く理解してもらい、教育遺産群はもとより、4市の歴史・文化に愛着を持ってもらうことでシビック・プライドの醸成を図る。また、同じく日本遺産に認定されている他の自治体や関係団体とも交流の機会をもつことで、他のストーリーに興味をもつ層が教育遺産群に

も興味関心を高めるなど、4市以外の人々に教育遺産群や4市に愛着を感じる人々が増える。

3 交流人口や国内外の観光客の増加

教育遺産群や4市の歴史や文化に国内外の多くの人に興味関心を持たれることで、4市を訪れる人々が増加し、交流人口や国内外の観光客が増加する。

4 地域の活性化

教育遺産群や4市の歴史や文化に誇りや愛着を持つ人々が日本遺産や教育遺産群に係る官民連携事業または民間が主体となった事業に取り組めるよう支援を行なう。多くの人々・団体が教育遺産群の価値を深く理解し、その魅力を独自に活用してもらうことで、教育遺産群や日本遺産を幅広くPRされる機会になるだけでなく、地域の魅力向上につながるなど、人やもの、文化、経済の交流により一層、地域が活性化する。

以上の将来的なビジョンに基づき、日本遺産制度と構成文化財を活用しながら、地域活性化のための取組を推進することで、多くの人々がより教育遺産群に興味をもち、地域も活性化されるという好循環サイクルが誕生する。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：各市の代表的な構成文化財の来館者数（人）

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	223,602	265,925	310,845			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	320,200	329,900	339,800	345,000	355,400	366,100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>各市の代表する構成文化財の来館者数を指標とする2024年度以降は、2023年度の実績を元に、翌年度以降は3%増の入館者数を目指す。</p> <p>主要な構成文化財…弘道館（水戸市）、足利学校（足利市）、閑谷学校（備前市）、咸宜園（日田市）</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：日本遺産のストーリーを中心に、地域の文化に誇りを感じる住民の割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	90	90	90			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	90	90	90	90	90	90
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産情報発信センター（二の丸展示館）や主要な構成文化財ほか、出前講座といった認定自治体で実施するイベント等でアンケートを行い、現在の90%の維持を目標とする。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：各市構成文化財にかかる代表的な販売所での売り上げ合計（円）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	5,962,050	7,883,673	12,375,416			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	12,746,700	13,129,100	13,523,000	13,928,700	14,346,600	14,777,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各市の代表的な構成文化財内にある販売所の売り上げ合計額を計算する。2024年度以降は、2023年度の実績を元に、以降3%増を目指す。 販売所：北澤売店（弘道館・水戸市）、足利学校販売所（足利市）、閑谷学校販売所（備前市）、咸宜園教育研究センター（日田市）					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：構成文化財が棄損・滅失していない割合（%）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100	100	100			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財が棄損・滅失していない割合を指標として定め、これからも保存に努めるとともに、整備を進めていく。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数（人）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	7,615,214	8,943,858	9,606,175			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	9,894,300	10,191,100	10,496,800	10,811,700	11,136,100	11,470,200
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各市の観光入込客数（1月～12月）の合計を指標とする。2024年以降は、2023年の実績を元に、毎年3%増の入込客数を目指す。※数値は年度ではなく、暦年とする。					

(3) 地域活性化のための取組の概要
<p>1 これまでの成果と課題</p> <p>2015年度に「近世日本の教育遺産群」が日本遺産に認定されて以降、協議会や4市では、ストーリーを理解・浸透してもらうため、ガイダンス施設の整備やホームページ開設などにより情報発信や普及啓発を中心に日本遺産推進事業に取り組んできた。2021年度の認定継続となった際に、民間事業者との連携強化や構成4市間の連携強化の必要性が指摘されたことを踏まえ、旅行エージェントを介して体験型プログラムを含めたツアー造成や、都内で官民連携に積極的に取り組むビジネスパーソンへの講座「丸の内プラチナ大学」開講、教育遺産群ストーリーを応援する個人に活動いただく「教育遺産群サポーター制度」を創設するなど民間との協働を進めてきたほか、海外への情報発信や概念・単語の整理をも見据えた「国際シンポジウム」の開催や「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書概要」の英訳版作成など、協議会4市の連携を強化しながら、新たな事業も展開してきた。</p> <p>さらに、アフターコロナを念頭に、多言語のチラシ・リーフレットの作製や、ツーリズムEXPO ジャパンへの出展など、国内外の観光客の誘致にむけた活動を推進してきた。</p> <p>また、日本遺産認定後には足利学校の「足利学校門前マルシェ」、閑谷学校の「閑谷マルシェ」といった構成文化財を会場としたイベントも随時開催され、広範囲からの出店があり、構成文化財を拠点とした地域交流のモデルが創られつつある。</p> <p>他にも、偕楽園の「水戸の梅まつり」や閑谷学校の「楷の木ライトアップ」など、認定前から開催されているイベントにおいても、日本遺産の構成文化財であることを広くPRしている。他にも、水戸市・足利市・日田市では合同での講演会やイベントやブース出展などを通して、県内や近隣の他ストーリーとの連携を進め、備前市では閑谷学校と日本遺産「きっと恋する六古窯」の構成文化財をつなぐシャトルバスの運行といった、市内の複数の日本遺産を結ぶ事業を推進してきた。</p> <p>一方で、協議会の予算は各市からの負担金で成り立っており、協議会事業の自立自走化といった課題も残っているほか、遠隔4市をひとつのストーリーとして理解いただくことができるシリアル型ならではの特性を活かすことが課題であり、これまでの取組を精査・</p>

進化・拡充させ、4市間の交流や共通の取組の促進、及び官民連携事業を一層推進する必要がある。

このような成果・課題をもとに、以下のような取組を推進することとする。

2 今後の取組概要

(1) 教育遺産群が果たしてきた役割の理解度向上と情報発信

4市の構成資産の代表として、それぞれの市には官学・藩校・郷校・私塾の代表的資産が存在する。それぞれの教育資産がどのような役割を果たし、それが近世の教育のストーリーとなることへの理解度を高める。そのため、「学び」をテーマに、4市全てに足を運んでもらうことで達成できるイベントや、訪れた市でしか味わえない他3市の限定体験などを設けるなど、遠隔4市をひとつとして感じられる事業を進める。さらに、閑谷学校の講堂での論語体験や坐禅体験のプログラム化など、新しいツアー造成による他の教育遺産への興味向上や、各市イベントへ日本遺産ブースとして他3市の情報や物産を出展するなど、4市の距離が身近に感じられる取組を進める。

また、日本遺産ポータルサイトや協議会HPの随時見直しを図るほか、年齢層に応じたSNSの活用を進める。さらに、学習や体験を得た「近世日本の教育遺産群サポーター」による情報発信や、リーフレット等の情報ツールや展示スペースを整備・活用し、国内外に構成文化財やストーリーを中心に情報発信して、一層の教育遺産群の認知度向上を目指す。

(2) 海外観光客の受入れ環境整備と誘客

新型コロナウイルスの5類への移行を機に、国内外の人々の流れが活発になってきていることを踏まえ、国内外特に外国人観光客に対しての魅力発信や誘客施策、受入体制を強化する。

観光部門の体制を強化することに伴い、ツーリズムエキスポ等のインバウンド関連イベントにおけるPR活動やインフルエンサーを活用した海外へ向けた魅力発信、海外商談会等において誘客コンテンツのひとつとしてストーリーを示すなど、観光団体等との連携を深め、インバウンド誘客施策の機会を捉え、日本遺産を活用した誘客を行う。

また、これまで、国際シンポジウムの開催や提案書概要英訳版作成に伴い、教育や歴史、文化財の専門家からの提案や、海外有識者からの意見をいただき、教育遺産群の概念や用語について整理を図ってきた。この成果を踏まえ、より理解しやすい多言語案内板整備を行うとともに、外国語に対応できる人材の育成、協議会ホームページの個別情報や動画の多言語化など、外国人観光客受入れに対応した環境整備を進める。

(3) 民間団体との連携深化による協議会の体制強化と観光力向上

地域のプレーヤー人材の育成や経済の活性化等を推進するため、協議会の日本遺産事業の実行力を高める体制を拡充する。具体的には、各市内の文化財部門と観光部門の連携を一層密にするとともに、観光や生産など産業関連民間団体の参画や連携に努め、ストーリーの磨き上げや情報発信に加えて「稼ぐ力」を視野に入れることを目指し、事業戦略を計画する。

協議会の存在を明示させるため、教育遺産群をテーマにデザイン募集を行い、シンボルマーク化する事業を行う。

また、4市より拠出している負担金や、各市のふるさと納税、HPへの広告費、オリジ

ナルグッズの作製などにより安定した収入を得ることで、協議会の自立した活動体制を強化する。

(4) 教育遺産群を中心に、地域の歴史や文化に誇りを持つ人材の育成

4市には日本遺産の構成文化財以外にも地域の誇りとなる歴史や文化財が存在する。ガイドボランティアや地域コミュニティ組織に対して学習会を行うとともに、若年層に向けて、リーフレットの配布や出前授業を実施する。また、令和6年4月に開始した近世日本の教育遺産群サポーターには学習会や情報提供のほか、会報「教育遺産群通信」といった独自の活動を推進する。これら活動を通して、将来の教育遺産群や構成文化財を守り・活用する担い手となる人材を育成する。

学校教育の場面において、これまで行っている、地域を知るための副読本を活用した授業に加え、教育遺産に足を運ぶ「調べ学習」を促すとともに、近年注目されている「ラーケーション」導入を推進し、対象に教育遺産群を含めることで、江戸時代の学びの場のほんものに触れ、体感できる機会を増やし、子ども達の先人への感謝と郷土への愛着度を高める。また、これまで水戸⇄足利で行ってきた「こども交流事業」について、4市オンライン学習交流会・研究会や宿泊を含めた事業などへ拡充する。また、大人を対象とした同事業も推進して、子どもから大人まで幅広い年齢層の人々が、地元の教育遺産のみならず他の教育遺産を知ること、郷土を改めて振り返る機会とするとともに、近世日本の教育の先進性を理解して、各地の教育遺産のみならず、教育遺産群という広く、新しい視点を身につけることになるなど、心の成長を促す。

(5) 広域での地域交流・活性化

全国において教育遺産が存在する自治体とも交流を深めることで、協議会において普遍的な魅力をより深く理解し、「全国教育遺産スタンプラリー」を実施するなど、教育遺産そのものが持つ魅力を幅広く発信するとともに、自治体連携や教育遺産知名度の強化を図る。さらに、各市それぞれ同県内・近隣地域の日本遺産認定団体と地域間交流や観光連携を図り、各種イベントや講演会・シンポジウムを実施し、教育遺産の認知度を高めることにより、全体の交流人口と観光客の増加を目指す。

また、構成文化財を会場としたイベントを開催し、構成文化財を4市周辺との地域交流の拠点とする。

(6) 構成文化財の保護や整備・活用

ふるさと納税を中心に得た収入を構成文化財の修繕や施設整備などに活用する。また、構成文化財等の保存を目的とした積立金制度化を進める。

(4) 実施体制

○協議会の名称

教育遺産世界遺産登録推進協議会（水戸市、足利市、備前市、日田市で組織）

○役職員

会長 水戸市長

副会長 足利市長、備前市長、日田市長

○構成団体 ※◎総括課

・水戸市（◎歴史文化財課、観光課、都市計画課、みとの魅力発信課、公園緑地課、市街地整備課）

・足利市（◎文化課、史跡足利学校事務所、観光まちづくり課）

- ・ 備前市（◎生涯学習課、観光シティプロモーション課）
- ・ 日田市（◎世界遺産推進室、咸宜園教育研究センター、文化財保護課、観光課）
- ・ 水戸商工会議所、足利商工会議所、備前商工会議所、日田商工会議所
- ・ 各市が指名する専門家
- ・ 茨城県（文化課、都市整備課、水戸土木事務所（偕楽園公園センター、弘道館事務所））
- ・ 栃木県（文化振興課）
- ・ 岡山県（文化財課）
- ・ 大分県（文化課）

本協議会は、水戸市、足利市、備前市、日田市の4市を中心に事業を推進している。日本遺産事業や予算に関する計画については、各市担当で構成する事務連絡会議で素案をとりまとめたのち、幹事長・幹事で構成する幹事会を経て、協議会の総会にて会長以下、委員の承認を受けた上で決定している。決定した事業計画に基づき、各市の事務担当者により、随時事務連絡会議を開催して、事業の見直しや必要事項の協議を行う。各種事業の実行にあたっては、4市で役割分担を定めている。

日本遺産による地域活性化を目指すため、4市の商工会議所も参画し、商工会議所を通して、地域の商店会や民間企業にも日本遺産の普及啓発などを協同で取組を行っている。

県と市でも、文化財や観光、商工、広報などを担当する部局と連携をとっており、日本遺産を活用した動画やリーフレットの作成、構成文化財での企画展の開催などにも取り組んでいる。

さらに、協議会内において、日本遺産事業の実行力を高めるため組織体制の拡充を図る。文化財部門と観光部門の連携を強化し、特に各市観光コンベンション協会・観光協会など観光部門を中心とした新たな部門を整備する。観光や生産などの産業関連団体や教育関係組織等とともに、「学び」をテーマとした4市の横断的な事業を推進することで、課題となっている民間事業者が主体的に取り組める土壌づくりを進める。

また、4市においては、すでに締結している「災害時相互応援協定」などをはじめ、芸術や文化等の多面にわたる交流も視野に入れている。

新たに設置する部会イメージ

教育遺産世界遺産登録推進協議会

（仮）日本遺産推進部会

部会長・・・ 水戸観光コンベンション協会会長

副部会長・・・ 足利市観光協会会長・備前観光協会会長・日田市観光協会会長

水戸市

- ・ 水戸市（観光部門中心）
- ・ 水戸観光コンベンション協会
- ・ 水戸商工会議所

足利市

- ・ 足利市（観光部門中心）
- ・ 足利市観光協会
- ・ 足利商工会議所

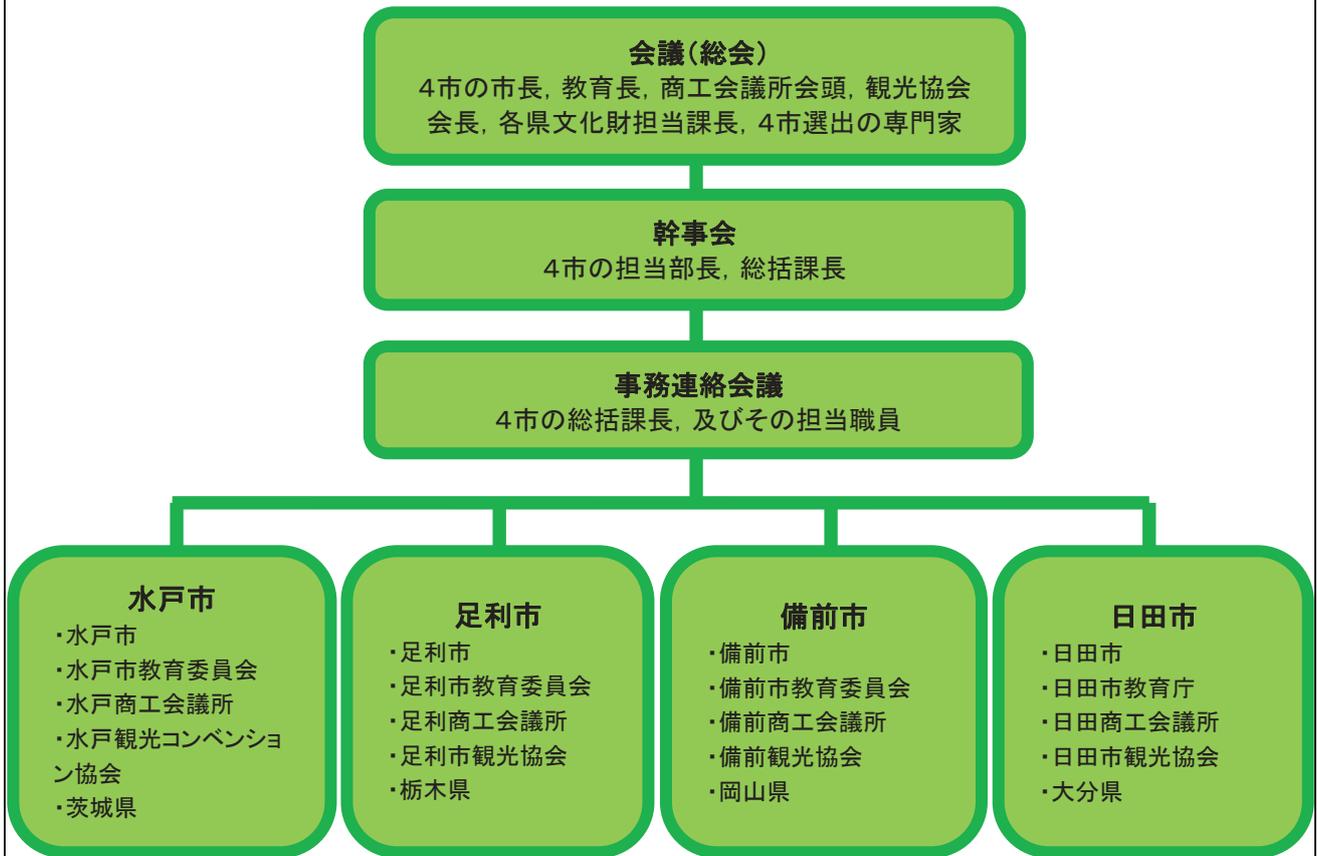
備前市

- ・ 備前市（観光部門中心）
- ・ 備前観光協会
- ・ 備前商工会議所

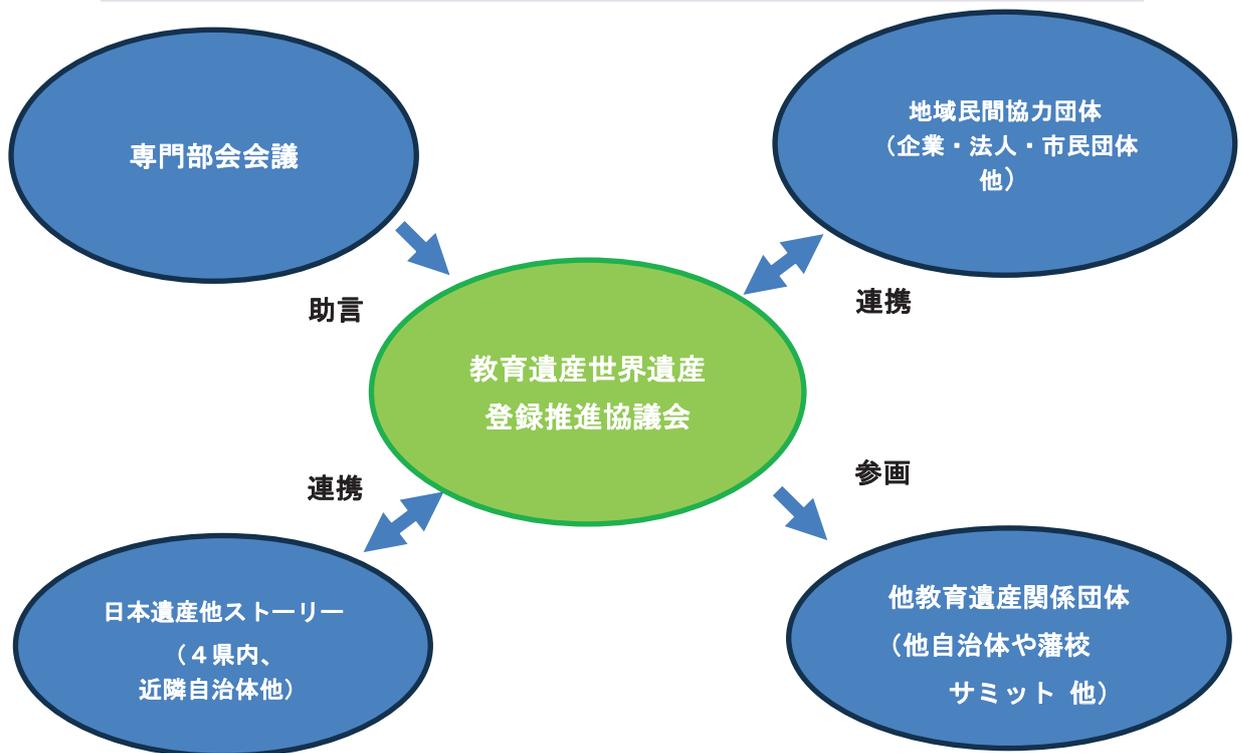
日田市

- ・ 日田市（観光部門中心）
- ・ 日田市観光協会
- ・ 日田商工会議所

今後の教育遺産世界遺産登録推進協議会組織表（日本遺産関係）



事業推進イメージ



各市事務分掌（日本遺産関係）

水戸市

経理・総務担当

・対外的な窓口／経理事務／各年度の事業計画・予算作成／サポーター制度とりまとめ

足利市

魅力・情報発信担当

・日本遺産HP、日本遺産ポータルサイトの更新
普及啓発担当
・体験型コンテンツ等の検討

備前市

補助事業担当

・補助事業の検討と効果の検証

ストーリー検討担当

・サブストーリー検討

日田市

戦略担当

・日本遺産連盟との連携・対応（日本遺産フェスティバル等窓口）

普及啓発担当

・普及啓発品の製作

[人材育成・確保の方針]

民間企業や各種法人による広報紙への情報掲載、ボランティアガイドや地域コミュニティ会員への日本遺産を中心とした現地説明会や講習会の実施、小中学校の生徒への日本遺産リーフレット、普及啓発品の配布、児童・生徒による日本遺産と地域の歴史・文化を絡めた学習発表といった、地域が主体となる活動を進めている。日本遺産の認知度や地域の歴史・文化に対する誇りを醸成するため、若年層に向けて学習教材やリーフレットを配布すると共に、出前講座を実施する。地域住民に対しては、講演会や企画展示などを通し、日本遺産の認知度向上を目指す。

日本遺産の地域の担い手の育成や観光面での継続的な取組として、観光ボランティアガイド向けの講習や地域コミュニティ向けの現地見学会・学習会を実施し、質を高めていく。

2023年度に多くの方々を対象に「近世日本の教育遺産群サポーター（教育遺産群サポーター）」制度を創設し、2024年度から募集を開始しているが、ほかにも以下のような民間協力団体が存在する。

○地域の民間協力団体 * 協議会の正式な構成組織・団体ではないが、恒常的な協力関係にある団体

①企業・法人（9団体）

- ・水戸商工会議所青年部：イベントの実施、広報誌への情報掲載
- ・一般社団法人水戸観光コンベンション協会：地域プレイヤーの育成、モデルコースの策定、イベントの実施、チラシ等への掲載など
- ・スポーツ振興協会：広報誌への情報掲載
- ・一般社団法人足利市観光協会（登録 DMO）：地域プレイヤーの育成、モデルコースの策定、イベントの実施等
- ・公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会：構成文化財の保護など
- ・一般社団法人 岡山藩郡代津田永忠顕彰会：構成文化財の普及啓発、情報発信
- ・一般社団法人備前観光協会：地域プレイヤーの育成、イベントの実施など
- ・一般社団法人日田市観光協会（登録 DMO）：地域プレイヤーの育成、モデルコースの策定、イベントの実施など
- ・公益財団法人廣瀬資料館：構成文化財に関する展示、イベントの実施など

②民間団体（14 団体）

- ・ 偕楽園公園を愛する市民の会：弘道館での論語塾の実施ほか、構成文化財での普及啓発活動の実施
- ・ 三の丸自治コミュニティ連合会：弘道館や旧水戸彰考館跡周辺での事業協力
- ・ 偕楽園四季の会：構成文化財の情報発信
- ・ 吉田塾：弘道館での歴史講座等の実施
- ・ 足利市文化財愛護協会：構成文化財の保護・調査
- ・ 史跡足利学校論語素読運営委員会：イベントの実施
- ・ 史跡足利学校釋奠保存委員会：祭礼の実施（釋奠）
- ・ 足利学校論語研究会：イベントの実施
- ・ 伊里地区まちづくり会議：構成文化財の普及啓発、イベントの実施
- ・ 熊沢蕃山顕彰保存会：構成文化財の普及啓発、情報発信
- ・ 津田永忠事績和気町顕彰会：構成文化財の普及啓発、情報発信
- ・ 咸宜園放学遊山の会：構成文化財の普及啓発、情報発信、イベントの実施
- ・ 咸宜園平成門下生之会：普及啓発（講演会・学習会の実施）など、情報発信
- ・ 日本遺産活性化懇話会：観光事業等の検討会議の実施

③その他（地域プレーヤー等）（21 団体）

市民観光ボランティア歴史アドバイザー水戸、水戸藩葵組、中学生ボランティア「チーム魁」、子ども史跡ガイド魁二の丸隊、足利観光案内人、いしだたみの会、備前市観光ボランティアガイド、豆田地区振興協議会、豆田町伝建保存会、豆田第一自治会、豆田第二自治会、丸の内町自治会、城町一丁目自治会、港町自治会、中城町自治会、淡窓町自治会、豆華会、日本遺産子どもガイド、豆田町上町通り商店会、豆田みゆき通り商店街、日田ご当地コンダクター

（5）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

協議会の運営費用は4市の負担金によって成り立っている。4市では、教育遺産群の世界遺産登録を目指すとともに、世界遺産登録と日本遺産推進を両輪の事業と考え、今後も積極的に推進していくことを取り決めていることから、その運営基盤は安定しているといえる。また、構成文化財を会場とするイベントで民間からの協賛金を募るなど、官民連携での事業を推進してきた。ただし、今後協議会事業の一層の安定化を図り、自立・自走を目指すために、協議会独自の収益を確保する必要がある。具体的には、日本遺産の補助金で制作したホームページに民間企業の広告を有料で掲載し、協議会の運営資金にするとともに、各市で構成文化財などの保存や活用、地域の観光・文化振興、魅力発信などに使用用途を限定したふるさと納税やクラウドファンディングの寄付募集を推し進めていく。加えて、協議会オリジナルグッズを製作して、販売する。

また、通常非公開の弘道館の建学精神を記した「弘道館記碑」の解説付き特別公開や、水戸東武館での武道体験、閑谷学校の講堂での論語体験と小斎での呈茶体験セットなど、「学び」をテーマとした体験型コンテンツを造成したところ、複数回においてツアーが催行されるなど、断続的ではあるが地域の経済に効果が表れている。4市それぞれの「学び」旅行商品をシリーズ化するとともに、例えば水戸・足利のように2つの市以上をめぐる旅行商品も検討するほか、ツアーには他市の構成文化財もからめて教育遺産をアピールすることで、ストーリーとして一体感を生み出す相乗効果により継続化を図る。さらに「学び」

の魅力を向上させながら、観光や生産、飲食などの企業等に対し、自治体や協議会からの支援を行うなど、民間の力による商品化を促していく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

平和が続いた近世日本において、身分に限らず幅広い知識と読み書き能力が求められ、その社会を支えてきた。来日した諸外国の人々が驚くほどの高い教育水準を有し、礼儀・作法を重んじるなど、その姿勢は今も脈々と受け継がれている。

近世の学校や教科書の存在、学びの精神、日本人の気質、礼節、平和など、教育遺産が果たしてきた役割やその魅力を個人や団体・企業等に理解いただくことにより、資産の価値への認識、地域の魅力として捉えられ、永く宝（文化財等）を大切に守り伝え、感じてもらいたいという気運につながっていく。そのため、民間の活力や協力を得ながら、構成文化財等の整備や海外を含めた多くの人々が来訪する取組を進めるなど、訪れやすい環境を整えていく。さらには、地域や応援いただける方々に構成文化財の継承を行い、郷土に教育遺産があることへの誇りを持っていただき、自らが関わり活躍していきたいと思える土壌を作っていく。これらのことにより、地域の活性化が高まるとともに郷土愛が深化されていき、そこで得た収益や愛着は文化財を保全していく活力になっていく。さらには、この循環を強化させて、守っていききたい、伝えていききたい、応援していききたいという心を醸成させていくことを目指す。

そのため、以下の取組を推進する。

1 構成文化財の新しい魅力の再発見

各市と県の調査研究や協議会の有識者会議を通して、教育遺産群のストーリーや構成文化財の価値や魅力を検討してきた。その結果、近世日本人は、海外の人々からその教育水準の高さと礼儀正しさが高く評価されていたことなど様々な事例を多くの方々にわかりやすく紹介してきた。今後も有識者会議で新たな知見を得て、教育遺産群や構成文化財の新しい魅力を発見する。そして、その成果を出前講座や講演会等で市民に還元するとともに、教育遺産群サポーターや各市観光協会・コンベンション協会ほか民間団体等と連携して、普及啓発事業や体験型ツアー造成といった観光客誘致事業のほか、新商品開発事業等を推進する。多くの人々や団体等において、教育遺産群のストーリーや構成文化財の価値について理解を深める機会を創出することで、保存の必要性和活用に対する興味を高める環境を醸成していく。

2 構成文化財の保存・活用にかかる資金確保

ふるさと納税を活用した構成文化財の施設整備を行い保存に努めてきたところである。今後ともふるさと納税の活用を推進するとともに、民間寄付やクラウドファンディング等も視野に入れながら、構成文化財等の保存を目的とした積立金の制度化を行い、保存への資金確保を行うとともに、民間への文化財に対する保存の意識向上を図り、好循環を生み出すことに努めていく。

3 構成文化財とその周辺地区及び関係文化財の整備・活用

(1) 市や県による構成文化財の保護・保存や整備のほか、周辺地区の整備（誘導路、駐車場、トイレなど）を行っている。今後も、都市景観形成助成費を活用した構成文化財周辺の景観・環境整備や補助金を活用した構成文化財の施設整備により、誘導路のバリ

アフリー化、ガイダンス設備の充実、歴史的建物の復元等の事業を推進し、文化財個体も含め構成文化財と調和する景観の形成によって、文化財を守り・伝えていく大切さと、地域への誇りを市民の方に感じてもらい、教育遺産のまちの活性化を図る。

(2) 構成文化財の一部もしくはその周辺には、教育遺産群と関係する文化財が残されており、こういった多くの文化財を一体的に整備・活用することで、周遊性を高めるとともに、サブストーリーの構築を行なう。

4 民間の活力を用いた取組

(1) 地元の民間団体が構成文化財や関連施設を運営・管理する取組が始まっている。例えば、水戸市では旧水戸彰考館跡に置かれた二の丸展示館の一部管理を水戸市シルバー人材センターに委託する。また、足利市では足利市観光協会が足利学校の一部業務やプロモーション活動を行ない、岡山県所管の閑谷学校は特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会が運営・管理するほか、日田市では豆田町の豆田まちづくり歴史交流館を市民で構成される豆田町伝建保存会が管理している。

今後も民間視点を入れた構成文化財の運営の弾力化と収益の増加を図る。

(2) 水戸市や茨城県で偕楽園周辺の事業において公募設置管理制度（Park-PFI）を導入したほか、足利学校や閑谷学校周辺で民間団体によるイベントが実施され、構成文化財の価値を損なわずに魅力を保持しながら、民間の活力を用いた観光誘客や交流拠点化を推進している。今後も地域住民や民間団体と共同で、構成文化財やその周辺を会場としたイベントの事業展開や、事業実施にかかる補助金などの交付を通して、支援を推進する。

5 構成文化財の継承

文化財保存には、多世代にわたる地域の方々の理解と誇りが育まれることが重要であると考えている。そのため、将来を担う子ども達には、小中学校への出前授業の実施や学習教材の配布、ラーケーションとしての活用、教育遺産に足を運ぶ「調べ学習」といった教育遺産群の活用を促進し、地域で活躍の源となる市民に向けては出前講座や講演会、シンポジウムなどの普及啓発事業を実施するほか、教育遺産群サポーターやガイドボランティアをはじめとした日本遺産地域プレーヤーを育成するなど、日本遺産や教育遺産群を通じて文化財の価値を理解いただき、その継承につなげている。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	教育遺産群事業の積極的な推進のための体制強化事業		
概要	教育遺産群にかかる事業を推進するため、協議会内の日本遺産事業の実行力を高める体制を強化する。また、組織連携強化や教育遺産群サポーターの円滑な運用を行なう。さらに、民間が教育遺産群にかかる事業に参画しやすくするため、官民のネットワークを拡充する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会組織体制拡充	文化財部門と観光部門の連携を強化するとともに、観光部門を中心とした新しい部会「(仮)日本遺産推進部会」を整備する。また、各市観光コンベンション協会・観光協会といった観光や生産など産業関連民間団体の参画や連携に努め、ストーリーの磨き上げや情報発信に加えて「稼ぐ力」を視野に入れることを目指すことで、雇用を創出し、地域経済の活性化につなげる。	協議会 4市
②	教育遺産群サポーター制度の運用	令和6年度に募集を開始する教育遺産群サポーターの会員を増やすため、募集チラシや協議会HPにサポーター特設ページを設置する。また、各市SNSなどで広報活動を推進する。あわせて、随時制度の見直しを図ることで、制度の円滑な運用を目指す。	協議会
③	地元民間団体との連携強化	地元民間団体との連携を深めることで、教育遺産群の活動や地域活性化につなげる取組を推進する。	協議会 4市
④	各市構成文化財等の委託管理	各市の構成文化財等について、管理や運営、窓口業務を民間に委託して、民間の視点を入れた運営の弾力化と収益の増加を図る。	4市 岡山県
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会への協力団体数		29 団体
2022			31 団体
2023			41 団体
2024			42 団体
2025			43 団体
2026			44 団体
2027			45 団体
2028			46 団体
2029			47 団体
事業費			2024年度：400千円 2025年度：400千円 2026年度：400千円
継続に向けた事業設計	教育遺産群サポーター入会者を安定的に増やすことで、教育遺産群への理解と興味を深め、協議会への協力団体数の増加を図る。		
事業費	2027年度：400千円 2028年度：400千円 2029年度：400千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産フェスティバル in 水戸の開催に向けて、4市特に開催地の水戸の協力団体数を増やしていく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	教育遺産群事業の積極的な事業推進のための体制構築		
概要	地域活性化計画の進捗状況やその成果を随時検証しつつ、事業を推進する。また、4市の行政計画に日本遺産に関する事業を反映して、4市が積極的に事業に取り組む。あわせて、教育遺産群の新しい知見を得ながら新規事業を立案する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	マーケティング調査の実施及び戦略の策定	4市内の地域コンセプトや事業戦略を検討するため、各イベントや各市の構成文化財や展示施設等でアンケートを実施するとともに、担当者事務連絡会議等で積極的な協議を行う。	協議会
②	担当者事務連絡会議の活性化	各市担当で構成する事務連絡会議について、オンライン形式を用いて一層の活性化を図り、協議会や各市の取組が円滑に進むようにする。	協議会
③	行政計画への日本遺産の位置づけ	4市の行政計画に日本遺産や構成文化財を位置づけ、積極的に日本遺産関連事業を推進する。	4市
④	有識者による専門部会の実施	調査研究を進める専門部会で得た教育遺産群の新たな知見や魅力を活用する。	協議会
⑤	他教育遺産関係団体との連携	主要な教育遺産を有する自治体や、全国の藩校が存在した自治体や旧大名家で構成される「藩校サミット」など、教育遺産に関係する団体・組織との連携を強化する。	協議会 4市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会での会議開催数（協議会総会・幹事会・事務連絡会議等）		6回
2022			6回
2023			6回
2024			10回
2025			8回
2026		8回	
2027		12回	
2028	※日本遺産フェスティバル in 水戸開催予定		12回
2029			8回
事業費	2024年度： 600千円 2025年度： 600千円 2026年度： 600千円		
継続に向けた事業設計	会議・協議を積極的に行うことで、協議会の円滑な運営を心がけるとともに、協議会事業の推進を図る。2024年度は日本遺産の認定にかかる審査に対応するため、多くの会議・協議の場を設ける。		
事業費	2027年度： 600千円 2028年度： 600千円 2029年度： 600千円		
継続に向けた事業設計	2028年度に日本遺産フェスティバル in 水戸の開催を計画しているため、2028年度と前年の2027年度は会議の場を増やし、フェスティバルが成功するよう、協議会が連帯して取り組む。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3-A)

事業名	教育遺産群地域プレーヤー育成事業		
概要	構成文化財を理解し、教育遺産群にかかる事業を将来的に担う地域プレーヤーを育成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育遺産群サポーター 会員養成	サポーターを対象に現地学習会などを開催し、教育遺産群への理解と関心を深めてもらう。また、協議会計画の講演会や体験型ツアーなどにサポートメンバーとして参加してもらうほか、サポーター主体の活動を実施する。	協議会
②	教育遺産群ガイドボラン ティア養成	各市の観光ボランティアガイドや子どもガイドに対して養成講座を実施し、日本遺産制度や構成文化財の歴史などの理解を深めてもらう。	協議会 4市
③	子ども交流事業	各市の子どもがオンライン学習交流会や他市を訪れて、他市の教育遺産群を学び、全体のストーリーを深く理解するとともに、連帯感を強める。	協議会
④	地域プレーヤー交流連 携事業	4市と各市地域プレーヤー(民間協力団体等)及び地域プレーヤー同士の交流を通して、他市の教育遺産の理解を深めつつ、連帯感を強める。	協議会 4市
⑤	こども釋奠事業	足利市内の小中学生が構成文化財である釋奠を体験して、足利学校の伝統行事や歴史を学ぶ。	足利市
⑥	咸宜園研究奨励事業	廣瀬淡窓や咸宜園に関する研究の一層の推進を図るため、国内及び地域に根差した研究者の活動を奨励する。	日田市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	教育遺産群サポーター制度の延べ会員数		—
2022			—
2023			—
2024			120人
2025			140人
2026			160人
2027			180人
2028			200人
2029			220人
事業費	2024年度:1,000千円 2025年度:1,000千円 2026年度:1,000千円		
継続に向けた 事業設計	サポーター会員の増加を目指すとともに、必要に応じて運営の見直しを行なうことで、サポーター制度の活性化を目指す。		
事業費	2027年度:1,000千円 2028年度:1,000千円 2029年度:1,000千円		
継続に向けた 事業設計	制度が落ち着いた時点で、サポーター会員の自発的な活動を推奨することで、より一層の活性化を図る。日本遺産フェスティバル in 水戸の開催年を目標に会員数200人を目指す。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	教育遺産群拠点整備事業		
概要	構成文化財及び日本遺産情報発信センターについて、展示機能の充実ほか整備を推進する。あわせて、構成文化財周辺の環境を保全し、歴史的景観を感じることができるまちづくりを進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財及び日本遺産情報発信センターの施設整備	・構成文化財や日本遺産情報発信センター（二の丸展示館）における展示内容を充実させる。 ・構成文化財の修復やバリアフリー化（動線整備）といった整備を推進する。	協議会 4市 茨城県
②	案内板や説明板等の情報更新及び新設	案内板や説明板等の更新と新設を進める。教育遺産群のストーリーや構成文化財を簡潔かつわかりやすく解説しつつ、多言語化を進める。	協議会 4市
③	都市景観形成事業	・構成文化財の周辺地区において構成文化財と調和する都市景観づくりに寄与する行為に対して助成金を交付する。 ・景観条例や景観計画等により構成文化財周辺の開発を規制して、歴史的景観の保全を図る。	4市 岡山県
④	ふるさと納税を活用した構成文化財の整備・活用	足利市、備前市では構成文化財の保存や整備、活用、魅力発信などに用途を定めたふるさと納税を行っており、これを利用して、構成文化財の補修や観光誘客に向けた環境整備につなげる。	足利市 備前市
⑤	サブストーリーの構築	・教育遺産群周辺の文化財と教育遺産群を融合したサブストーリーを検討する。	協議会 4市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	4市の代表的な構成文化財（弘道館・足利学校・閑谷学校・咸宜園）の総入館者数		223,602人
2022			265,925人
2023			310,845人
2024			320,200人
2025			329,900人
2026			339,800人
2027			345,000人
2028			355,400人
2029			366,100人
事業費	2024年度:10,000千円 2025年度:10,000千円 2026年度:10,000千円		
継続に向けた事業設計	国の補助金を活用することで、積極的に構成文化財の修復・整備を図る。		
事業費	2027年度:10,000千円 2028年度:10,000千円 2029年度:10,000千円		
継続に向けた事業設計	ふるさと納税だけでなく、協議会独自の商品開発などを行なうことで、協議会事業の自走化を推進する。また、構成文化財だけでなくその周辺の歴史的景観の保全を図ることで、構成文化財の価値を高める。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	教育遺産群を体感できるコンテンツやオリジナルグッズの開発		
概要	構成文化財周辺の整備や体験型コンテンツの開発を行なうことで、観光客数の増加を図る。あわせて、民間事業者等が構成文化財に関する事業を実施しやすくするための支援を行なう。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンド観光の推進事業	ツーリズムエキスポ等のインバウンド関連イベントでのPR活動ほか、インフルエンサー等を活用して海外へ教育遺産群の魅力を発信する。	協議会
②	借楽園周辺整備事業	・借楽園公園においてPark-PFI制度を活用して開業した迎賓館を、民間企業が運営する。 ・借楽園公園脇の千波公園西側(旧西駐車場)にPark-PFI制度を活用し、集客施設を民間主導で建設する。	茨城県 水戸市
③	構成文化財にかかる体験型コンテンツの実施や、オリジナルグッズの販売	・構成文化財を中心として周辺の文化財や教育遺産群を学ぶことができる体験型コンテンツの制作ほかモデルコースの改訂を実施する。 ・協議会オリジナルグッズを製作・販売する。	協議会 4市 観光協会
④	民間事業者や地元団体による日本遺産にかかる事業への支援	認定地域内の民間事業者や地元団体に対し、構成文化財の魅力発信に関わる事業を支援する。	協議会 4市
⑤	構成文化財やその周辺でのイベント開催	4市観光客の増加につながるよう、観光ニーズの調査・研究も行いながら、PR活動はもとより、4市それぞれの構成文化財を活用したイベントの充実を図る。交通機関を用いて利便性の向上を高めるなど、周遊策を含めた新たな取組を計画する。	協議会 4市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	4市の観光客数		7,615,214人
2022			8,943,858人
2023			9,606,175人
2024			9,894,300人
2025			10,191,100人
2026			10,496,800人
2027			10,811,700人
2028			11,136,100人
2029			11,470,200人
事業費	2024年度:20,000千円 2025年度:20,000千円 2026年度:20,000千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者と協働で様々な事業を推進することで、構成文化財やその周辺を訪れる人々の増加を図る。		
事業費	2027年度:20,000千円 2028年度:20,000千円 2029年度:20,000千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財及びその周辺を訪れる人々をターゲットにした体験型コンテンツや観光の際のモデルコースを充実させることで、より一層の来場者増加を目指す。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名	教育遺産群普及啓発事業		
概要	協議会や4市で進めている普及啓発活動を一層充実させ、教育遺産群や4市の歴史・文化について理解を深める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	普及啓発イベント	日本遺産の普及啓発のため、日本遺産認定10周年記念イベントのほか、講演会や交流事業、出前講座、構成文化財の特別公開を実施する。	協議会 4市
②	普及啓発品の作製・配布	日本遺産の認知度や地域の文化に誇りを持つ人材の醸成を目的とした普及啓発品の作製・配布。	協議会 4市
③	日本遺産認定地域間連携	同じ地方や県内で日本遺産に認定されている団体と連携し、普及啓発イベントや講演会、シンポジウムなどを開催し、認知度向上や観光客の増加を目指す。	4市
④	構成文化財及び4市の展示施設における企画展・特別展の開催	構成文化財や市内の展示施設において、日本遺産や構成文化財、地域の歴史・文化などに関する展示を実施する。	協議会 4市 茨城県 岡山県
⑤	新たな体験型ツールの造成	協議会共通で、近世日本の教育を気軽に体験できるツールを新規に作成し、各市構成文化財などに体験コーナーを設ける。	協議会 4市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会及び4市が主催する出前講座等の学習体験を受けた人数		232人
2022			269人
2023			780人
2024			800人
2025			850人
2026			900人
2027			950人
2028			1,000人
2029			1,050人
事業費	2024年度：1,000千円 2025年度：1,000千円 2026年度：1,000千円		
継続に向けた事業設計	単市事業だけではなく、4市交流事業を行なうことで、他市の教育遺産群にも興味関心が持てるよう留意する。		
事業費	2027年度：1,000千円 2028年度：1,000千円 2029年度：1,000千円		
継続に向けた事業設計	イベントについて、協議会や日本遺産ポータルサイトでの情報発信を積極的に行う。イベントでは日本遺産フェスティバル in 水戸のPRを行い、機運醸成を図る。		

(事業番号6-B)

事業名	日本遺産フェスティバル in 水戸推進事業		
概要	全国の日本遺産ストーリーが集結する日本遺産フェスティバルを 2028 年度に開催し、全国の人々に教育遺産群への理解と興味関心を深める機会とするとともに、水戸のまちなかの活性化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産フェスティバル in 水戸イベント	構成文化財を中心とした体験型コンテンツの実施や関連講演会などを開催して、日本遺産フェスティバルへの市民の機運を高める。	協議会 4市
②	日本遺産フェスティバル in 水戸	全国のストーリーが集結する出展ブースのほか、エクスカージョンや意見交換、関連イベントなどを実施	協議会 4市
③	記録集刊行	フェスティバルの記録集を刊行する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産フェスティバル in 水戸の来場者数		—
2022			—
2023			—
2024			—
2025			—
2026			—
2027			—
2028	※日本遺産フェスティバル in 水戸開催予定		10,000 人
2029			—
事業費	2024 年度： — 2025 年度： — 2026 年度： —		
継続に向けた事業設計	2028 年度の実施に向け、これまでの他自治体の日本遺産サミット・フェスティバルについてリサーチを行なうとともに、プログラムの作成準備を行なう。		
事業費	2027 年度： 1,000 千円 2028 年度： 9,200 千円 2029 年度： 1,000 千円		
継続に向けた事業設計	フェスティバル成功のため、4市間での連携を深めるとともに、文化庁や日本遺産連盟との協議を密に行なう。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	教育遺産群情報発信事業		
概要	近世日本の教育遺産群にかかる情報を発信するとともに、各市の情報発信を積極的に行う。各取組にあたっては、多言語化に留意しつつ、国内外の人々へ情報を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	HP を活用した情報発信	協議会の多言語日本遺産 HP (5か国語) や文化庁の日本遺産ポータルサイト及び各市 HP を活用し、構成文化財や関連イベントの情報を発信する。	協議会 4市
②	SNS・アプリケーションを活用した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・各市 SNS を活用し、構成文化財や関連イベントの情報について頻度を高く発信する。また、協議会の SNS を新設する。 ・国内外の観光客向けに開発・整備した多言語ナビゲーションアプリの利用促進を図り、観光客の誘客を目指す。 	協議会 4市
③	リーフレット等印刷物の改訂	協議会や各市で作成したリーフレット等の印刷物について、改訂版を随時作成して、掲載情報の更新を図る。	協議会 4市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会 HP (日本遺産) と日本遺産ポータルサイト内の教育遺産群へのアクセス数合計		18,667 回
2022			16,732 回
2023			19,854 回
2024			20,500 回
2025			21,000 回
2026			21,500 回
2027			22,000 回
2028			22,500 回
2029			23,000 回
事業費	2024 年度 : 700 千円 2025 年度 : 700 千円 2026 年度 : 700 千円		
継続に向けた事業設計	イベント情報などを積極的に更新してアクセス数の上昇を図るとともに、教育遺産群の PR を推進する。		
事業費	2027 年度 : 700 千円 2028 年度 : 700 千円 2029 年度 : 700 千円		
継続に向けた事業設計	2028 年度の日本遺産フェスティバル実施に向け、情報発信の頻度を増やすとともに、SNS では双方向の情報共有を図ることとする。		